

第3回 養老町立小学校再編準備 施設通学部会

1. 前回の振り返り

(2) 第2回施設通学部会でのご意見

<スクールバスの新規集合場所の課題と検討事項について>

●新規集合場所の設定

- ・広い道路は交通量的にも危険であるため、**県道沿い等は望ましくない**。
- ・道路の横断は事故につながる可能性があるため、**なるべく道路を横断しない配置が望ましい**。

●運用ルール

- ・複数台あるうちの1つのバスを**統合校間で共有する前提のルート設定は、運用上現実的ではない**。
 - ・集合場所が遠いと車送迎が増える可能性があり、**車かバスかを選べる仕組み**があるとよい。
 - ・集合場所に来なかった**児童の確認・対応方法について明確化**する必要がある。
- ⇒**バス運行不能時は基本、全校休校**とし、その**連絡手段は確立**されている。

●条件設定

- ・設定条件は原則固定としつつ、**安全性を考慮した調整**を検討する。
- ・今後も児童数の減少により通学方法、範囲の見直しは随時更新が必要と予想されるので、どのようにルートの改善を図るのか、**仕組みづくりも必要**である。

2. スクールバス事業者へのヒアリング結果のご報告

(1) スクールバス事業者への確認事項

●日時・ヒアリング対象者

- ・令和8年9月10日(水) 14:00～15:00
- ・エム・エス観光有限会社(現養老小学校スクールバス運行会社)

I. 運行実態

- ・遅延発生状況、運行ルートについて

II. 現在の運用上の課題

- 1) 人員確保 … 運転手の確保、予備車両・代替運転手の確保状況について
- 2) 車両 …… 大型・中型・マイクロバスの適正について
- 3) 運行管理 … 緊急時対応、事故・トラブル事例について
- 4) 安全管理 … 乗降確認方法(置き去り防止対策)、乗降時の安全管理

III. 小学校統合に伴うスクールバスの導入について

- ・適正なバス停間隔、バス停環境(片側1車線の道路、商業施設駐車場 等)について
- ・効率的なルート設定の考え方について
- ・バスが円滑に通行できる道路幅員(大型・中型・マイクロバス別)について
- ・山間部・狭あい道路への対応について

(2) スクールバス事業者へのヒアリング結果

I. 運行実態

- ・現状の運行では遅延は発生していない。
- ・都市部ではないため深刻な渋滞はなく、朝夕のラッシュ時でも信号待ちは少ない。
- ・現ルートの一部（桜井地区や沢田地区）は道路幅員が5m未満だが、相互通行は可能である。
- ・現在の集合場所（公園や集会所等）は、バスを横づけして、停車していても一般車は通行可能である。

II. 現在の運用上の課題

1) 人員確保

- ・予備として中型バスが1台あり、常に1人が動ける体制を確保している。
- ・過去に出庫前のパンクにより、往路のみ別車両で対応した事例がある。
- ・今後、仮に5台を運用することとなった場合でも、予備車両としては1台の用意になると思う。

(2) スクールバス事業者へのヒアリング結果

Ⅱ. 現在の運用上の課題

2) 車両

- ・養老小学校では50人乗りの大型バスを運用しているが、乗車人数は最大でも17～18名程度である。
- ・**大型バスと中型バスは小回りの点で効率性が変わる**が、マイクロバスは中型バスと比べて大きな差はない。

3) 運行管理

- ・積雪などで**通常ルートが通れない場合はルート変更で対応**するが、到着時間にずれが生じる可能性がある。
- ・気象警報発令時、特に**児童を乗せた後での運行中止の判断は難しい**。

4) 安全管理

- ・**登校時は保護者が一緒に来るため、乗車人数等を把握しており、乗り忘れがないようにしている**。下校時の乗車人数の把握は、班長（6年生）に任せている。
- ・バス降車時の確認も、最後に降車する児童（班長）が行っている。

(2) スクールバス事業者へのヒアリング結果

Ⅲ. 小学校統合に伴うスクールバスの導入について

1) 集合場所

- ・商業施設の駐車場を利用することについて、下校時は混雑しているように推察する。
- ・一般の車は、標識通りに走行しないことが多く、危険である。
- ・集合場所として避けるべき場所は特になく、常識的の範囲内であれば問題ない。

2) 運行ルート

- ・5.5m以上の広い道路だけでルートを考える必要はなく、4m道路でも大型車の通行は可能である。
- ・左折周りを原則としなくても問題ないが、乗降を考慮して集合場所（乗降場所）が進行方向の左側とする必要がある。
- ・養老街道は朝に混雑し、特にセブンイレブン周辺が混み合う。国道258号は問題ない。
- ・小学校に到着後、降車は1～2分程度である。4分もあれば余裕である。

3. 施設通学部会後にいただいた意見の共有

(1) 各小学校区からの主な共通の意見

1. 児童の安全確保を最優先に検討すべき

- 集合場所そのものだけでなく、集合場所までの徒歩経路や横断箇所の安全確保が重要である。
- ガードレールや歩道の有無、交通量の多い道路の横断など、安全面への不安が多く示された。
- 災害時や積雪時も含めた運行の安全性について配慮が必要との意見があった。

2. 大型バス前提ではなく車両規模を再検討すべき

- 大型バスでは道路幅員や旋回スペースの制約が大きく、安全な運行が困難との意見が多かった。
- 中型バスや小型バスを活用することで、より安全かつ柔軟なルート設定が可能になるとの意見が複数あった。

3. 児童の徒歩負担を軽減すべき

- 集合場所までの徒歩距離が長くなることへの懸念が示された。
- 地域や居住地によって負担に差が生じないように配慮すべきとの意見があった。
- 一人で長距離を歩く児童への配慮が必要との指摘もあった。

3. 施設通学部会後にいただいた意見の共有

(1) 各小学校区からの主な共通の意見

4. 保護者・地域住民の意見を十分反映すべき

- 実際に利用する児童や保護者の意見を幅広く聞くことが重要との意見が多く出された。
- PTAや区長会、自治会など地域組織も含めた協議の必要性が指摘された。

5. 運行計画の具体化と丁寧な説明が必要

- 通学時間や運行方法、乗降方法などの考え方を分かりやすく示してほしいとの要望があった。
- 実際の道路状況を踏まえた試走や検証を行うべきとの意見があった。
- 今後の検討スケジュールや意思決定プロセスを明確にしてほしいとの声があった。

6. 将来的な児童数変化を見据えた柔軟な運用が必要

- 今後の児童数の増減に応じて、車両規模や運行方法を柔軟に見直せる仕組みが必要との意見があった。

(1) 各小学校区からの主な共通の意見

集合場所についての提案

- これまでの小学校で集合する
- 公民館等のその他の公有地で集合する
- 商業施設等の民地で集合する

(2) ご提案の集合場所についてのメリット・デメリット

●これまでの学校で集合する案

<メリット>

- 地域、子供、先生の皆が慣れており、**合意も得やすい**と考えられる
- 土地の取得に関する**費用が不要**
- バスの敷地内**転回のためのスペース確保**が可能
- 跡地として**体育館を残すことの合理性**も得られる
- **留守家庭教室**を従来の学校で実施する際は効果的
- 生徒の集合状況等、1ヶ所に集まることで**管理が容易**になる
- **敷地内での待機**が可能となり、管理の方法によっては**屋内で待機**が可能となる
- 一般の方と動線が交わらないため、乗降の際の迷惑や**事故等の防止**につながる
- 親による集合場所までの**送迎も容易**となる

<デメリット>

- **跡地活用の上での制約**（集合場所としての機能の維持）
- 養老小学校や笠郷小学校からのバスの移動距離が遠いと、**徒歩での集合場所までの時間の余裕が少なくなる**（通学30分の制約）
- 1ヶ所での集合の場合、生徒の人数によっては**集合時間をずらす、バスの台数を増やす**等の工夫が必要

3. 施設通学部会後にいただいた意見の共有

(2) ご提案の集合場所についての分析と課題

●養北小学校区でのご提案について

・養北小学校へ集合してスクールバスに乗り、養老小学校へ送る案

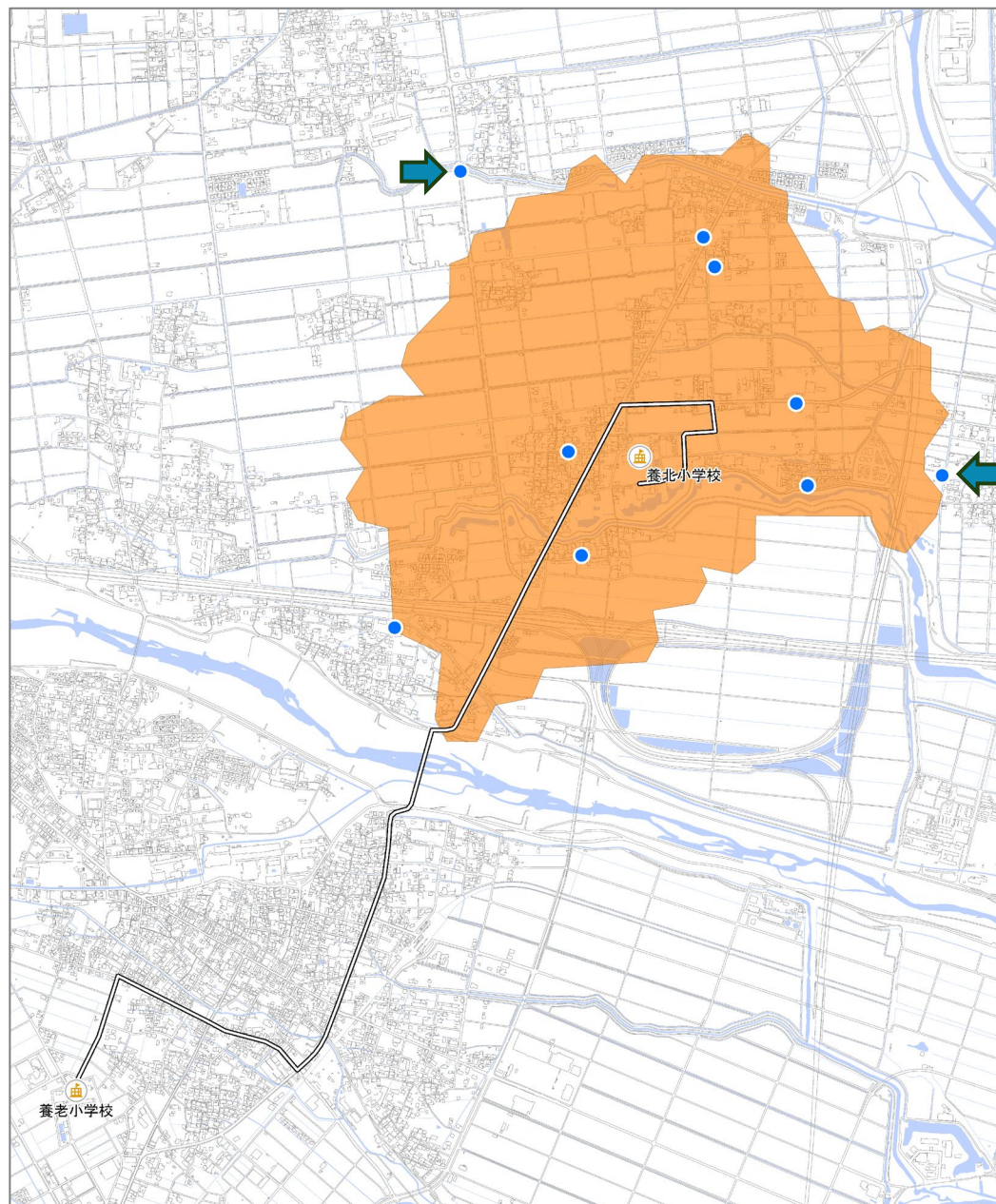
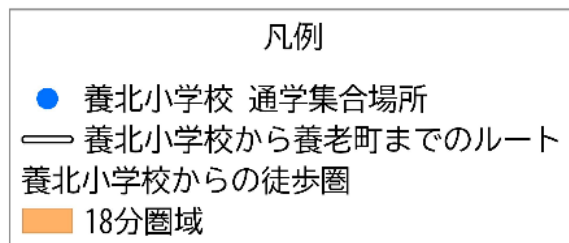
1) 養北小学校から養老小学校までの時間の整理

距離(km)	速度(km/時)	時間(分)	
4.5	23.4	11.5	⇒ 約12分

⇒スクールバスで約12分で到着するため、徒歩18分で養北小学校へ到着するかを検証

結果：

既存集合場所の2ヶ所を除き、徒歩＋スクールバスでの移動で30分以内に学校へ到着することが可能



(2) ご提案の集合場所についてのメリット・デメリット

●その他の公有地（公民館等）で集合する案

<メリット>

- ・地域、子供、先生の皆が慣れており、**合意も得やすい**と考えられる
- ・土地の取得に関する**費用が不要**
- ・バスの敷地内**転回のためのスペース確保**が可能
- ・**敷地内での待機**が可能となり、調整次第では**屋内で待機**が可能となる
- ・親による集合場所までの**送迎も容易**となる

<デメリット>

- ・**施設の開放時間が限定的**な可能性がある
- ・集合場所とする際に**施設管理者との調整が必要**となる
- ・**他の利用者との動線**に気を付ける必要がある

(2) ご提案の集合場所についてのメリット・デメリット

●民地（店舗等）で集合する案

<メリット>

- ・土地の取得に関する**費用が不要**
- ・バスの敷地内**転回のためのスペース確保**が可能
- ・**敷地内での待機**が可能となり、調整次第では**屋内で待機**が可能となる
- ・親による集合場所までの**送迎も容易**となる

<デメリット>

- ・集合場所とする際に**店舗等との調整・協議が必要**となる
- ・民地であることから、将来、土地利用が変わる可能性もあり、継続性が見込めない
- ・**他の利用者との動線**に気を付ける必要がある

3. 施設通学部会後にいただいた意見の共有

(2) ご提案の集合場所についての分析と課題

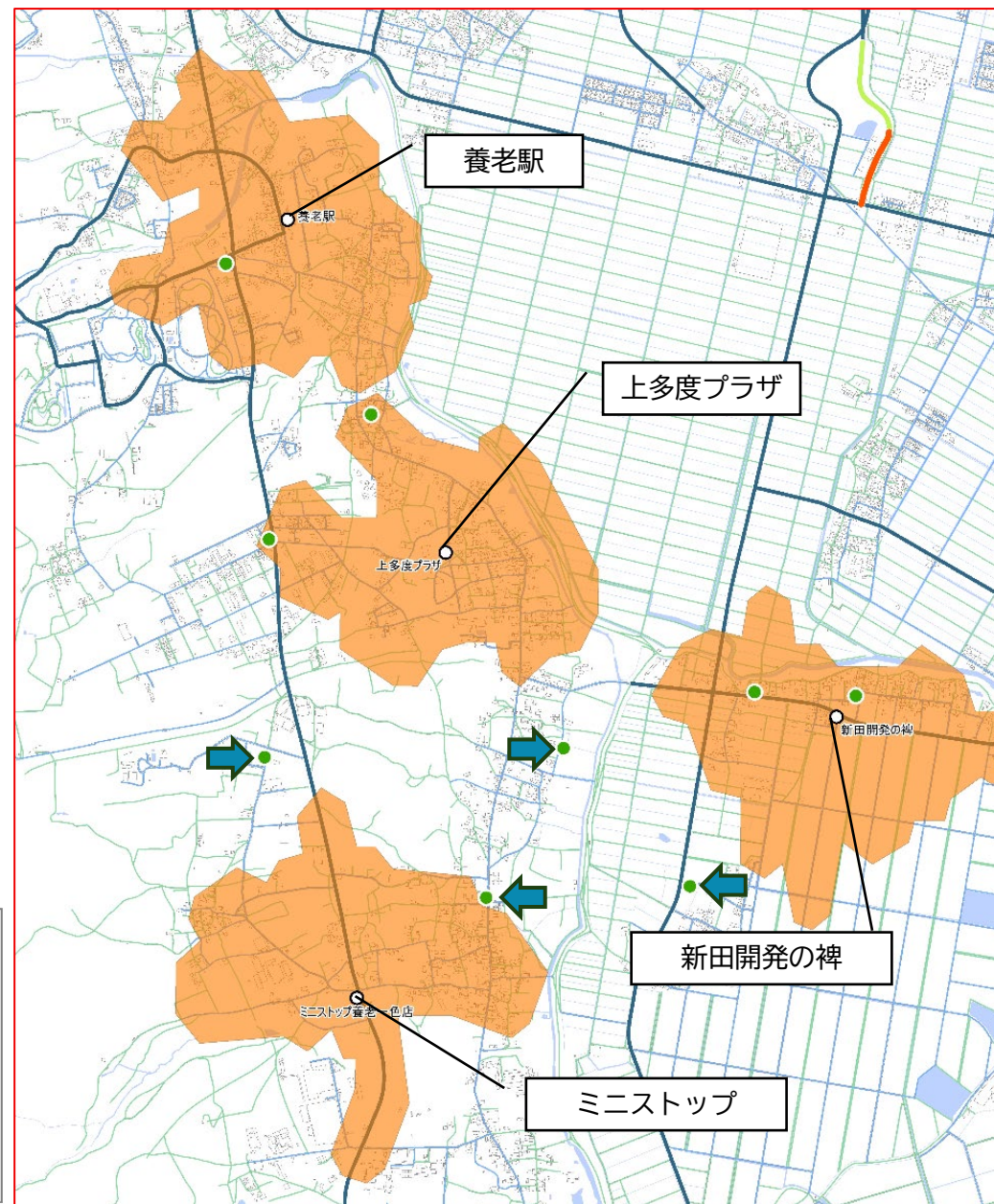
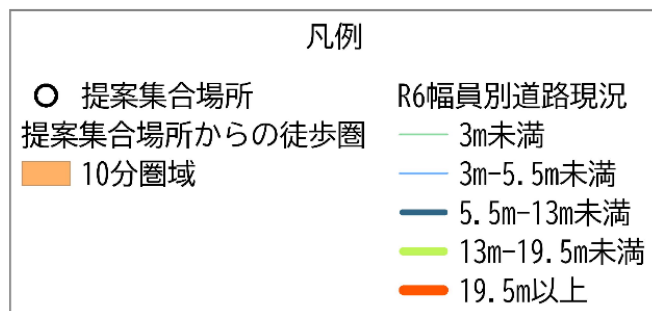
●上多度小学校区でのご提案について

・養老駅、上多度プラザ、ミニストップ、新田開発の俣
を集合場所とする案

1) 各提案箇所からの徒歩10分圏を確認

結果:

既存集合場所の4ヶ所が徒歩10分圏から外れていた。



3. 施設通学部会後にいただいた意見の共有

バス規格サイズ比較(一般的な目安)

項目	大型バス	中型バス	マイクロバス
全長	約 11.0 ～ 12.0 m	約 8.0 ～ 9.0 m	約 6.0 ～ 7.0 m
全幅	約 2.5 m	約 2.3 m	約 2.0 m
全高	約 3.0 ～ 3.8 m	約 3.0 ～ 3.2 m	約 2.6 ～ 2.8 m
乗車定員	約 45 ～ 60 名	約 25 ～ 33 名	約 14 ～ 29 名
車両総重量	約 14 ～ 16 t	約 8 ～ 11 t	約 4 ～ 6 t
必要免許	大型二種	大型二種	中型二種(8t限定不可)
主な用途	観光・長距離送迎	団体送迎・中規模輸送	近距離送迎・送迎バス

※ メーカー・車種により差異あり。数値は一般的な目安値。

(3) 今後の検討課題

- 下校時の時間編成を含めて検討
 - 留守家庭教室のあり方と並行して検討
-
- 集合場所までの通学経路を含めた安全性の詳細検証
 - 大型・中型・小型バスの比較検討および適正車種の選定
 - 徒歩負担や通学時間の地域間格差への対応
 - 保護者、自治会、PTA等を含めた意見聴取の実施
 - 実車による試走及び運行ルートを検証
 - バス利用基準（対象区域、距離条件等）の明確化
 - 将来的な児童数変化を踏まえた柔軟な運行計画の構築
 - 積雪時や災害時を含む運行・安全対策の整理
 - 検討スケジュールや意思決定プロセスの見える化